

平成 16 年病虫害の発生と防除

農林水産省消費・安全局植物防疫課

昨年は、6～8月にかけて全国的に高温・少雨となったことから、農作物の生育が遅延する地域が見られた。その間には相次ぐ台風の接近・上陸があり、強風雨により、圃場の浸・冠水、農作物の損傷等が生じ、病虫害の発生を助長する状況が多く見られた。本年の病虫害防除対策に向けて様々な検討が進められているところであるが、本年の病虫害防除対策の検討資料として、昨年公表された気象庁資料、各県の発生予察情報および各種統計報告を基に、昨年の気象経過、主要病虫害発生概況および植物防疫事業概要をまとめた。

I 平成 16 年の天候経過の概要

冬期間（平成 15 年 12 月～平成 16 年 2 月）の経過は、北日本を通過する低気圧が多かったことから、平年に比べ曇り、雪または雨の日が多くなったが、低気圧通過後の冬型の天候は長続きせず、また寒気の南下が弱かったことから、北日本では冬期間を通じて平均気温が高かった。一方、東日本、西日本および南西諸島では大陸の高気圧に覆われる日が多かったことから、太平洋側を中心に平年に比べ晴れる日が多く降水量は少なく、寒気を伴った大陸の高気圧が張り出したことなどから、12月中旬と1月下旬～2月上旬にかけて低温となった（図-1 参照）。

春期間（3～5月）の経過は、3～4月にかけて移動性高気圧に覆われ、晴れる日が多くなったことから、全国的に気温が高く、特に東日本、西日本では3か月連続の高温となった。5月になると太平洋高気圧の縁に沿って湿った暖かい空気が入り、前線や低気圧の影響を受けやすくなったため、南西諸島を除き曇りや雨の日が多くなった。

梅雨入りは全国的に平年より早く、5月5日に平年より3日早く沖縄が梅雨入りしたことを皮切りに、1週間前後早く5月29日に九州、四国および中国地方が梅雨入りした。6月6日頃には近畿地方から北陸地方まで一気に梅雨入りし、6月7日に平年より3日早く東南北部

地方、6月19日に平年より1週間遅れて東北北部地方が梅雨入りした。梅雨期間は、前線の活動が6月から7月上旬まで不活発であり、晴れて気温が高い日が多くなった。しかし、台風4号および6号が上陸し、7月中旬には北陸および東北地方で梅雨前線が活発となり、新潟県、福井県、福島県等で豪雨となった。梅雨明けは、沖縄および北陸地方が平年並であったほかは、1～7日早い梅雨明けとなった。一昨年梅雨明けが特定されなかった東北地方は、7月22日に北陸地方と同時期に梅雨明けした。

夏期間（6～8月）の経過は、梅雨前線の影響が少なかったため、7月中旬に北日本が低温となったほかは6月から8月上旬にかけて、ほぼ全国的に晴れて気温が高い日が多く、梅雨前線の影響を受けた東南北部・北陸地方を除いて降水量は少なかった。その後、北日本および東日本では次第に寒気の影響を受け始め、8月中旬頃から気温が平年を下回るようになり、北日本では中旬および下旬に、東日本では下旬に低温となった。また、台風の日本への接近回数は例年より多く、全国的に梅雨明けした7月下旬には台風10号が四国西部に上陸し中国地方を縦断し、8月上旬には台風11号が四国から近畿地方を縦断し、8月中旬には台風15号が九州から四国地方を通過し日本海に抜けた後に東北北部、北海道南部に上陸し、8月下旬には台風16号が九州地方を縦断した。8月中旬以降、西日本および南西諸島では多雨、寡照となった。8月までの上陸台風数は、1951年以降最多の記録となった。

9月上旬には台風18号が沖縄本島付近を通過、長崎県に上陸した後日本海を北上したため、西日本や南西諸島を中心に大雨となり、各地で記録的な暴風となった。また、下旬には台風21号が南西諸島に接近後、鹿児島県に上陸し、西日本、東日本、北日本を縦断するコースを通ったため、各地で大雨や暴風となった。10月に入り、上旬末には台風22号が伊豆半島に上陸、中旬末には台風23号が四国地方に上陸し、台風や秋雨前線の影響を受けやすかったため、曇りや雨の日が多く、降水量は北海道などで平年を下回ったが、東日本や西日本を中心に平年を大きく下回った。11月になると全国的に平均気温が平年より高温となり、降水量は概ね少なく、高

2003/04 年

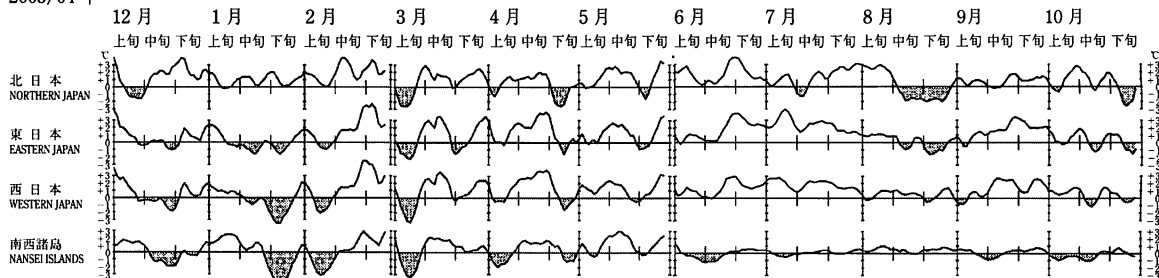


図-1 平成 16 年度地域別平均気温平年差の経過 (5 日移動平均)：気象庁報道発表資料から抜粋

温乾燥傾向の天候が続いた。

II 病害虫発生概要

病害虫の発生については、寒気を伴った大陸の高気圧の張り出しなどにより、冬期間は北日本を除く地域で低温となったが、3月から4月にかけて晴れる日が多くなり、春先の病害虫活動に好適な天候となり、病害虫の越冬量も平年より多かったことから、病害虫の発生は平年より早く確認された。その後、梅雨期間は降水量も少なく、さらに夏が観測史上記録的な高温であったことから、一部の病害虫には好適な気象条件となり、多発生となった病害虫もあった。また、台風の相次ぐ日本への上陸により農作物が被害を受け、二次的な病害の発生が確認された。

各作物ごとの主要な病害虫の発生概況については、次のとおりである。

1 水稻病害虫

病害では、一昨年、全国的にいもち病が多発生となったことから、各地域で種子更新、種子消毒等による健全苗の育成が呼びかけられたが、一部の地域では育苗期間中にいもち病が発生した。5月中下旬には、西日本を中心にいもち病の感染に好適な気象条件となり、既に田植えが終了していた地域では、補植用取置き苗の葉いもちの発生が目立つ圃場や、罹病苗の持ち込みにより本田内に発生してしまった圃場が散見され始めた。補植用取置き苗における甚だしい発生や早い時期からの本田発生が見られたことにより、6月中旬には3県から注意報が発表された。全国的に梅雨入りした6月中下旬には、全国的に葉いもち感染の好適な気象条件となり、その後も頻繁に感染に好適な気象条件となったことから、急激に発生面積が拡大し、7月上中旬には東北および中国地方の一部地域で葉いもちの発生程度および発生面積が平年を超える状況となった。その後も病徴が進んだ地域では、

上位葉での葉いもち病斑の発生が多くなり、7月下旬から8月上旬にかけて、東北および中国地方を中心に警報、注意報が発表され、穂いもち防除が呼びかけられた。いもち病に関する警報は1件、注意報が9県で延べ24件発表され、適期防除が実施された。加えて、病徴が進展すると警戒された7月下旬から8月上旬の期間が全国的に高温少雨の天候となり葉いもちの病勢が抑えられたことから、東北、中国等の一部で発生が多かった圃場が見られるものの、大きな問題とはならなかった。

害虫では、ウンカ類の初飛来が4月19日九州南部(セジロウンカ1頭)で捕獲され、続いて5月8日頃に九州に飛来があり3、4日後には中国地方に飛来が確認された。6月上旬には、九州から東海地方までの地域および南関東で確認された。その後、梅雨前線の活動が活発化した7月中下旬頃から8月にかけて、北陸や東南北部までの飛来が確認された。一方、後期害虫である斑点米カメムシ類については、6月中旬頃から水田周辺の雑草地で発生量が多くなり始めたことから、7月上旬から注意報が発表され始め、8月末までの間に警報3件、23道県から25件の注意報が発表された。本年は、夏期間に高温となったことから、カメムシ類の発生動向は活発となり、水田内への侵入は平年より多くなった。

2 その他普通作物病害虫

麦では、4月中下旬、開花期から出穂期を迎えた地域で赤かび病の発生に注意が呼びかけられ、5月にかけて注意報が3件発表され、適期防除が実施された地域では、赤かび病の発生が全国的に平年より少なく抑えられた。しかし、5月に出穂期～開花期となった地域では、雨の日が多くなり効果的な防除が実施できず、一部地域で赤かび病が平年より多く発生した。

大豆では、夏期間の高温および9月の残暑が発生に好適となったため、9月下旬までに全国的にハスモンヨトウの発生が多くなり、注意報が21件発表された。その

表-1 病害虫発生・防除状況（平成 16 年 10 月 1 日現在）

（単位：千 ha，％）

病害虫名	概 評	発生面積 (前年比)	延べ 防除面積 (前年比)	ハダニ類	東北でやや多い～多い。	10(83)	69(52)
(イネ)				(ナシ)			
葉いもち	東北および中国の一部で多い、 他平年並以下。	551(98)	1,544(92)	黒斑病		2(100)	40(87)
穂いもち	東北および中国の一部で多い。	366(64)	1,701(82)	黒星病		4(100)	131(90)
紋枯病	九州でやや多い。	628(103)	880(97)	ナシヒメシンクイ		1(100)	58(109)
白葉枯病	北陸，近畿，四国および九州の 一部で多い。	31(194)	66(200)	ハダニ類	北陸および中国の一部でやや 多い。	9(150)	41(95)
ばか苗病		10(83)	986(89)	カメムシ類	東海以西でやや多い～多い。	3(150)	23(96)
縞葉枯病	九州北部で多い，中国の一部で やや多い。	39(177)	0(—)	アブラムシ類		8(114)	43(100)
もみ枯細菌病	北陸および九州の一部で多い。	29(132)	45(24)	(モモ)			
稲こうじ病		86(52)	58(109)	せん孔細菌病	近畿，中国および四国の一部 で多い。	3(100)	41(103)
ニカメイガ		118(84)	580(93)	灰星病	四国の一部で多い。	1(100)	43(98)
セジロウンカ		616(73)	1,234(93)	(ブドウ)			
トビイロウンカ		47(69)	873(97)	晩腐病	甲信および九州の一部で多い。	2(100)	52(98)
ヒメトビウンカ	東海で多い。関東，四国および 九州の一部でやや多い。	696(118)	1,161(90)	べと病	中国の一部で多い。九州南部 でやや多い。	7(117)	68(96)
ツマグロヨコバイ	南東北および関東の一部で多い。 中国，四国および九州の一部で やや多い。	706(124)	1,360(121)	灰色かび病		2(100)	34(97)
イネハモグリバエ		1(33)	12(200)	(カキ)			
イネドロオイムシ		184(86)	620(87)	うどんこ病		7(78)	44(98)
斑点米カメムシ類	東北北部，甲信，北陸および九 州南部で多い。	523(108)	1,737(93)	落葉病類	東海以西でやや多い～多い。	6(86)	48(100)
アワヨトウ	東海の一部で多い。	9(180)	56(84)	カメムシ類	概ね平年並。	9(225)	47(147)
コブノメイガ		233(41)	410(70)	カキクダアザミウマ		3(150)	22(116)
イネミズゾウムシ		687(99)	850(95)	(チャ)			
(ムギ類)				炭そ病	関東の一部で多い。	28(90)	81(96)
さび病類		25(100)	209(109)	チャノコカクモンハマキ	関東南部，東海および近畿の 一部で多い。	16(107)	79(130)
うどんこ病	北陸および中国の一部で多い。	60(125)	259(117)	カンザワハダニ		33(174)	87(90)
赤かび病	東北の一部で多い。関東および 北陸の一部でやや多い。	70(81)	542(99)	(キュウリ)			
雪腐病類		51(100)	96(114)	べと病	関東および北陸の一部で多い。	6(86)	41(79)
(ジャガイモ)				うどんこ病		5(83)	35(73)
疫病		9(64)	404(96)	(スイカ)			
(ダイズ)				つる枯病	東北の一部で多い。	3(75)	27(77)
紫斑病		8(44)	82(67)	(ハクサイ)			
べと病	東北および近畿の一部で多い。	40(65)	0(—)	軟腐病	東海，近畿および中国の一部 でやや多い。	1(50)	20(87)
葉焼病	北陸，近畿，中国および九州の 一部で多い。	32(200)	0(0)	白斑病		1(50)	13(68)
アブラムシ類		31(78)	52(72)	(キャベツ)			
ハスモンヨトウ	西日本を中心にやや多い～多い。	49(117)	88(111)	黒腐病	関東南部，中国および九州の 一部夏秋作でやや多い。	1(33)	19(91)
ハダニ類	全国的に平年並。	16(133)	1(14)	コナガ	北海道，東北，関東および北 陸でやや多い～多い。	10(100)	52(81)
カメムシ類	関東，中国および九州でやや多い。	27(75)	75(77)	(タマネギ)			
(カンキツ類)				べと病	近畿および中国の一部で多い。	1(50)	11(65)
そうか病		12(86)	83(94)	(野菜共通)			
黒点病		53(83)	254(285)	疫病	トマトでやや多い。	1(33)	33(81)
かいよう病	関東，近畿，四国および九州の 一部で多い。	22(129)	81(90)	灰色かび病	関東および北陸のトマトで多い。	4(50)	51(80)
ヤノネカイガラムシ		4(80)	73(80)	アブラムシ類		26(77)	177(76)
ミカンハダニ	四国の一部で多い。	51(96)	205(223)	ハダニ類		12(100)	59(89)
カメムシ類	近畿，中国および四国の一部で多い。	17(189)	41(44)	ハスモンヨトウ	西日本を中心にやや多い～多 い。	7(140)	31(80)
(リンゴ)				ヨトウガ	東北のキャベツで多い。	5(100)	63(100)
モニリア病		1(100)	8(13)	(キク)			
腐らん病		4(50)	32(57)	白さび病	関東，北陸および九州の一部 夏秋作で多い。	1(100)	9(100)
斑点落葉病	東南北部で多い。	9(45)	130(45)	アザミウマ類		1(100)	7(100)
黒星病		2(67)	93(45)	アブラムシ類		1(100)	7(100)
ハマキムシ類		2(29)	70(40)				

表-2 平成 16 年発生予察情報（警報・注意報・特殊報）の発表状況

(1) 警報・注意報（注：数字は発表年月日，斜体アンダーラインは警報）

(11 月 26 日現在)

①イネ		葉いもち	穂いもち	いもち病	斑点米カメムシ類	コブノメイガ	その他の病害虫
北 海 道					8/2		
東 北	青 森	7/5	7/29		7/30		
	岩 手	7/1	7/16, 7/28		7/30, <u>8/5</u>		
	宮 城	7/7	7/22		7/7, <u>7/28</u>		
	秋 田	6/17, 7/1	<u>7/23</u>		7/14		
	山 形	7/9	7/23		8/4		
	福 島	6/11			7/15		
関 東	茨 城			7/7	7/30		
	栃 木				7/16		
	群 馬						
	埼 玉						
	千 葉						
	東 京						
	神 奈 川						
	山 梨						
	長 野						
	静 岡	7/16	7/30		7/28		
北 陸	新 潟			7/14	7/30		
	富 山				7/14, 8/5		
東 海	石 川				<u>7/13</u>		
	福 井				7/12		
東 海	岐 阜				7/2		
	愛 知				7/9		
近 畿	滋 賀				7/23		
	京 都						
	大 阪				7/30		
	兵 庫						
中 国 四 国	奈 良						
	和 歌 山						
	鳥 取	6/17	7/21		7/15		
	島 根	7/1	7/23	7/14			
	岡 山			7/13	7/27	7/27	
	広 島		7/21		8/2		
九 州	山 口		8/2		7/16		
	徳 島						
	香 川						
	愛 媛						
	高 知						
	福 岡				8/27		
	佐 賀						
	長 崎						
	熊 本				6/17, 8/24		
	大 分						
沖 縄	宮 崎						
	鹿 児 島						

(11 月 26 日現在)

②畑作 (イネを除く)		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			麦赤かび病：5/28 (小麦), 大豆わい化病：6/2 (ダイズ), 菜豆黄化病：6/2 (インゲン), ヨトウガ：6/23 (テンサイ), アワヨトウ：7/7 (イネ科牧草, 小麦)
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	9/17 (ダイズ, ソバ) 8/27 (ダイズ) 9/14 (ダイズ) 9/28 (ダイズ) 9/14 (ダイズ) 10/4 (ダイズ)	麦赤かび病：5/18 (小麦, 六条大麦) 麦赤かび病：5/28 (麦類)
北陸	新潟 富山 石川 福井	8/24 (ダイズ) 8/20 (ダイズ)	
東海	岐阜 愛知 三重	9/10 (ダイズ) 8/11 (ダイズ) 9/29 (ダイズ)	
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	9/22 (ダイズ)	
中国 四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	9/1 (ダイズ) 9/14 (ダイズ) 9/29 (ダイズ) 8/27 (ダイズ)	
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	9/3 (ダイズ), <u>9/24 (ダイズ)</u> 8/13 (ダイズ) 8/10 (ダイズ) 8/6 (ダイズ) 8/20 (ダイズ)	カメムシ類：9/3 (ダイズ)
沖 縄			

(11 月 26 日現在)

③果樹 (茶を含む)		果樹カメムシ類	その他
北 海 道			
東北	青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島		ナミハダニ：8/10 (リンゴ) 灰色かび病：6/11 (ブドウ) 灰星病：5/26 (モモ) 腐らん病：6/3 (リンゴ)
関東	茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 静岡	6/10 (果樹全般) 4/28 (ナシ, リンゴ) 7/1 (果樹全般)	黒星病：6/29 (ナシ) カンザワハダニ：3/19 (茶) カンザワハダニ：3/26 (茶) モモハモグリガ：3/31 (モモ) カンザワハダニ：3/1 (茶), ハマキムシ類：7/30 (茶)
北陸	新潟 富山 石川 福井		べと病：7/1 (ブドウ)
東海	岐阜 愛知 三重	5/10 (リンゴ, ナシ, モモ, カキ), 7/8 (果樹全般) 5/11 (ナシ, モモ, ウメ) 4/28 (ナシ)	
近畿	滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山	6/9 (果樹全般), 7/16 (ナシ, モモ, カキ) 5/21 (ミカン, ナシ, モモ, カキ), 7/2 (果樹全般) 5/19 (モモ, カキ) 5/19 (ナシ, モモ, ウメ), 7/23 (果樹全般) 4/30 (ナシ, モモ, ウメ), 7/2 (果樹全般) 5/14 (カンキツ, モモ, ウメ, カキ)	ネギアザミウマ：4/27 (イチジク), アザミウマ類：6/3 (イチジク) かいよう病：7/5 (カンキツ)
中国四国	鳥取 島根 岡山 広島 山口 徳島 香川 愛媛 高知	7/5 (果樹全般), <u>8/11 (果樹全般)</u> 7/1 (ナシ, カキ) 5/19 (ナシ, モモ) 7/2 (果樹全般) 6/28 (果樹全般) 4/28 (モモ, ウメ), 7/2 (ナシ, カキ) 5/28 (ナシ, モモ, カキ, キウイ) 5/12 (ナシ, モモ, ウメ)	せん孔細菌病：5/18 (モモ), 炭疽病：9/15 (カキ)
九州	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島	6/3 (果樹全般), <u>7/7 (果樹全般)</u> 4/26 (カンキツ, ハウスミカン, ピワ) 7/16 (果樹全般) 6/3 (カンキツ, モモ, ナシ, カキ) 6/4 (果樹全般)	カンザワハダニ：4/14 (茶), クワシロカイガラムシ：4/16・8/13 (茶) ミカンハダニ：3/3 (カンキツ) クワシロカイガラムシ：7/2 (茶)
沖 縄			

(11 月 26 日現在)

④野菜		ハスモンヨトウ	その他
北海道			ヨトウガ：6/23 (ブロッコリ)，コナガ：6/2 (アブラナ科)
東北	青森		コナガ：5/28 (アブラナ科)，褐斑病：8/10 (キュウリ)，うどんこ病：8/10 (キュウリ)
	岩手		コナガ：5/11 (キャベツ)
関東	宮城		トマトハモグリバエ：9/27 (トマト，キュウリ)
	秋田		
山形	福島	10/1 (野菜共通)	
茨城	栃木	9/17 (野菜共通)	シロイチモジヨトウ：6/10 (野菜共通)，オオタバコガ：8/30 (野菜共通)
	群馬	8/27 (野菜共通)	
埼玉	千葉	9/14 (野菜共通)	
	東京	9/28 (野菜共通)	タバコガ類：9/28 (野菜共通)
神奈川	山梨	9/28 (野菜共通)	コナガ：5/26 (アブラナ科)，ハイマダラノメイガ：5/26 (アブラナ科)
	長野	9/14 (野菜共通)	ハイマダラノメイガ：8/16 (アブラナ科)，オオタバコガ：9/10 (ナス，キャベツ，レタス)
静岡	岡	10/4 (野菜共通)	オオタバコガ：7/28 (野菜共通)
			トマト黄化葉巻病：10/4 (トマト)
北陸	新潟	8/24 (野菜共通)	
	富山	8/20 (野菜共通)	
石川	福井		
東海	岐阜	9/10 (野菜共通)	疫病：9/1 (トマト)，トマト黄化葉巻病：9/10 (トマト)
	愛知	8/11 (野菜共通)	ハイマダラノメイガ：8/11 (アブラナ科)，トマト黄化葉巻病：8/11 (トマト，ミニトマト)，軟腐病：10/22 (アブラナ科)，黒斑細菌病：10/22 (アブラナ科)，黒腐病：10/22 (アブラナ科)，菌核病：11/4 (キャベツ)
三重		9/29 (野菜共通)	
近畿	滋賀	9/22 (野菜共通)	オオタバコガ：10/4 (野菜共通)
	京都		ハモグリバエ類：8/31 (野菜共通)
大阪	大		すすかび病：1/27 (ナス)，べと病：4/23 (タマネギ)，ネギアザミウマ：4/27 (野菜共通)，すすかび病：4/27 (ナス)，ミカンキイロアザミウマ：5/24 (ナス)，ミナミキイロアザミウマ：8/24 (ナス)
	兵庫	10/4 (野菜共通)	ハイマダラノメイガ：8/11 (アブラナ科)
和歌山	奈良		
	歌山		
中国	鳥取	9/1 (アブラナ科野菜)	灰色かび病：4/6 (ラッキョウ)
	島根		
山形	岡山	9/14 (野菜共通)	さび病：6/2 (ネギ)
	広島		炭疽病：8/27 (キュウリ)，斑点細菌病：11/2 (レタス)
徳島	山口	9/29 (野菜共通)	
	香川	8/27 (野菜共通)	黄化えそ病：1/14 (キュウリ，メロン)，シルバーリーフコナジラミ：10/1 (トマト，ナス，ピーマン)，トマト黄化葉巻病：11/8 (トマト)
愛媛	高知		
九州	福岡	9/3 (野菜共通)	ハダニ類：2/3 (イチゴ)
	佐賀	8/13・10/15 (野菜共通)	ハダニ類：2/15 (イチゴ)
熊本	大分	8/10 (野菜共通)	炭疽病：5/17 (イチゴ)，オオタバコガ：10/15 (野菜共通)，ハダニ類：11/16 (イチゴ)
	宮崎	8/6 (野菜共通)	ハダニ類：2/2 (イチゴ)，トマト黄化葉巻病：3/23 (トマト，ミニトマト)，炭疽病：5/31 (イチゴ)
鹿児島			トマト黄化葉巻病：7/16 (トマト，ミニトマト)，シロイチモジヨトウ：8/1 (ネギ)
			コナジラミ類：1/6 (果菜類)，ハダニ類：1/6 (イチゴ)，うどんこ病：1/29 (キュウリ，ピーマン)，葉かび病：4/30 (トマト，ミニトマト)，トマト黄化葉巻病：6/4・9/6 (トマト，ミニトマト)
沖縄		8/20 (野菜共通)	トマト黄化葉巻病：6/11 (トマト，ミニトマト)
沖縄			モザイク病：6/2 (ニガウリ)

(11 月 26 日現在)

⑤花き類		ハスモンヨトウ	その他
北 海 道			
東 北	青 森		
	岩 手		
	宮 城		
	秋 田		
	山 形		
	福 島	10/1 (花き共通)	
関 東	茨 城	9/17 (花き共通)	
	栃 木	9/14 (花き共通)	シロイチモジヨトウ： 6/10 (花き共通)， オオタバコガ： 8/30 (花き共通)
	群 馬		
	埼 玉		タバコガ類： 9/28 (花き共通)
	千 葉		黄化えそ病： 10/8 (花き共通)
	東 京	9/28 (花き共通)	
	神奈川	9/14 (花き共通)	オオタバコガ： 7/28 (花き共通)
	山 梨	10/4 (花き共通)	
北 陸	新 潟	8/24 (花き共通)	
	富 山	8/20 (花き共通)	
	石 川		
	福 井		
東 海	岐 阜	9/10 (花き共通)	
	愛 知	8/11 (花き共通)	
	三 重	9/29 (花き共通)	
近 畿	滋 賀	9/22 (花き共通)	オオタバコガ： 10/4 (野菜共通)
	京 都		ネギアザミウマ： 4/27 (花き共通)
	大 阪		
	兵 庫		
	奈 良		
中 国 四 国	和歌山		
	鳥 取		
	島 根	9/14 (花き共通)	
	岡 山		
	広 島	9/29 (花き共通)	
	山 口	8/27 (花き共通)	
	徳 島		
	香 川		
九 州	福 岡	9/3 (花き共通)	
	佐 賀	10/15 (花き共通)	オオタバコガ： 10/15 (花き共通)
	長 崎	8/10 (花き共通)	
	熊 本	8/6 (花き共通)	
	大 分		
	宮 崎		
沖 縄	鹿児島	8/20 (花き共通)	

(2) 特殊報

(11 月 26 日現在)

		①普通作	②野菜類（花き類含む）
北海道			6/23：トルコギキョウのえそ斑点病
東北	青森 岩手		8/11：各種野菜・花きのアシグロハモグリバエ 1/16：ホップのうどんこ病 6/4：ピーマンのモザイク病
	宮城		8/31：アブラナ科野菜のオオモンシロチョウ 1/13：シクラメンの斑紋病
	秋田		6/18：キュウリ・トマトのアシグロハモグリバエ 7/7：キュウリのトマトハモグリバエ
	福島		11/2：ミニトマトの斑点病 11/2：トマトのトマトサビダニ
			5/27：シクラメンのえそ斑点病
関東	栃木 埼玉		11/15：トルコギキョウの IYSV 2/10：シクラメンの INSV
	千葉	5/14：レンゲのアルファルファ タコゾウムシ	6/10：トルコギキョウ・ユーチャリスの IYSV 5/14：モチノキのタイワントガリキジラミ
	東京	7/8：サツマイモのタテスジヒ メジンサンガハムシ	8/30：バジルの萎凋病
	神奈川		10/8：トルコギキョウの黄化えそ病
	長野		5/27：コニファー類のヒラズネヒゲボソゾウムシ 5/27：アルストロメリアの IYSV 7/28：イチゴのチビクロバネキノコバエ
東海	愛知 三重		10/22：キク・スイゼンジナのナスコナカイガラムシ 2/6：キュウリの黄化えそ病
近畿	京都 和歌山		8/13：トマトのすすかび病 9/22：ミニトマトのトマト黄化葉巻病
中国 四国	岡山		4/30：ナスのクリバネアザミウマ 6/21：キクのえそ病
	広島		10/2：トルコギキョウのえそ輪紋病
	徳島		10/18：トマトのトマト黄化葉巻病
	愛媛		3/1：トマトのすすかび病
			7/1：トマトの萎凋病
			7/5：トマトの葉かび病
	高知		11/5：トマトの TLCV 1/22：スイカの MYSV 1/22：シシトウの葉枯細菌病 2/16：ミョウガのモトジロアザミウマ 3/11：トマトの黄化葉巻病 6/29：ミョウガのイネダニ 10/22：ピーマン・トウガラシの黒枯病
九州	福岡		2/17：キウイのキクビスカシバ
	佐賀		3/30：インパチェンス・ディアスカアの INSV
	長崎		3/29：イチゴのハラアカモリヒラタゴミムシ
	熊本 鹿児島		9/15：キュウリのナスコナカイガラムシ 10/19：カナリヤシのヤシオオオサゾウムシ 2/26：ハイビスカスのモトジロアザミウマ
沖縄			3/1：ナス科植物のナスミバエ

他、8月から発生が多くなってきた吸実性のカメムシ類に対して、9月初めに注意報が1件発表された。病害では、台風の通過など、9月～10月に降雨が続いた地域において、べと病等の発生が多めとなった。

3 果樹病害虫

病害については、なし黒星病およびぶどうべと病などが、梅雨後期の降雨が多かった地域において、それぞれ注意報が1件発表された。また、りんご腐らん病については、罹病部への処置が適切に実施されていない圃場などで発生が多く、北日本で多く見られ、注意報が1件発表された。その他、台風の強い風雨により、樹体の損傷による病害感染が助長され、かんきつかいよう病の発生が多くなった地域があった。また、樹上の果実が損傷したことから、収穫後の果実腐敗病の発生が懸念される状況となった。

害虫では、果樹カメムシ類は、越冬成虫の活動が活発となった5月には全国的に発生量が多くなり、6月末までに注意報が20件発表された。その後、スギヤヒノキの球果の着果量が少なかったことから、森林部からの個体の離脱が早く、当年世代成虫を対象として8月上旬までに警報2件、注意報11件が発表された。なお、球果などの餌不足により、カメムシの絶対量が少なくなったのか、9月には急激に果樹園への飛来量が減少した。その他、ハダニ類が、カメムシ類同様に越冬量が多かったことから平年より早い時期から発生量が高まった。

4 野菜および花き

大豆の害虫でもあるハスモンヨトウの発生が、8月以降はほぼ全国的に多く見られ、警報が1件、注意報が24件発表された。また、オオタバコガの発生が7月から多くなり、10月上旬までに注意報が5件発表され、防除が呼びかけられた。このほか、春先から発生が多めで推移していたコナガが、梅雨までの間に注意報が4件発表され、夏期間にはハイマダラノメイガの発生が多くなり注意報が4件発表された。その他、ネギアザミウマ、ネギハモグリバエ、シロイチモジヨトウ等の害虫の発生に注意が呼びかけられた。

病害では、全国的な発生分布とはなっていないが、トマト黄化葉巻病が平成8年以降、急激に発生分布が拡大し、本年には新たに3県から発生確認の特殊報が発表され、現在までに九州、四国、東海等の地域で発生が確認されている。本病害は、シルバーリーフコナジラミにより伝搬されるウイルス病であるため、シルバーリーフコナジラミの発生を防止することが重要である。本年は、春先の冬春作から夏秋作にかけて警報が1件、注意報が

7件発表され、総合的な防除の取り組みが呼びかけられた。その他、梅雨前線による集中豪雨となった北陸および東北地方、台風の通過した地域では、その後の病害の発生に注意が呼びかけられ防除が実施された。しかし、相次ぐ台風上陸により圃場は浸・冠水状態となり、病害の発生を助長する状況となったことから、栽培管理、病虫害防除の徹底を図るべく、2県から注意報が発表された。しかしながら、長期間にわたり排水しきれない圃場では防除作業が進まず、軟腐病、黒腐病等の病害の発生が多くなった地域があった。

III 病虫害防除事業

1 ウリミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島、沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において不妊虫放飼による再侵入防止対策を実施した。

2 ミカンコミバエ

本虫の再侵入を防止するため、奄美群島沖縄県および小笠原諸島において侵入警戒調査を実施するとともに、沖縄県において誘殺剤散布による再侵入防止対策を実施した。

3 アフリカマイマイ

奄美、沖縄および小笠原諸島の被害の著しい野菜圃場などにおいて、マイマイ駆除剤散布による被害軽減防除を実施した。

4 アリモドキゾウムシおよびイモゾウムシ

平成9年鹿児島県屋久町の一部地域でサツマイモの重要害虫であるイモゾウムシの発生が確認され、植物防疫法に基づく緊急防除を実施してきたところであるが、徹底した防除の結果、本虫の根絶が確認され、平成16年5月31日をもって緊急防除を終了した。

また、奄美群島においてアリモドキゾウムシを、沖縄県においてイモゾウムシおよびアリモドキゾウムシを対象にして不妊虫放飼などによる根絶防除を継続して実施している。

IV 農林水産航空事業等

本年度の農林水産航空事業の農業関係延べ実施面積は、2,856千haとなる見込みである。

剤型別では、液剤139千ha、液剤少量53千ha、微量剤120千ha、粒剤4千ha、粒剤少量36千ha、その他2,497千haとなった。

本事業の基幹である水稻部門は、実施延べ面積347千

ha であり、畑作・果樹部門では、麦、大豆、粟等の病虫害防除が 8 千 ha であった。畜産部門は牧野の施肥などが 4 千 ha であった。ミバエ部門はミバエ類の侵入防止対策などが行われ、2,497 千 ha であった。

また、近年周辺環境などに配慮した散布方法として、ドリフトガードノズルを用いた片側散布法が茨城県において実証され、飛散防止対策として有効な手段が実用化された。

無人ヘリコプターによる病虫害防除は、約 633 千 ha、対前年を 12% 上回る増加見込みとなっている。

V 農薬の出荷状況

平成 16 農薬年度（平成 15 年 10 月～平成 16 年 9 月）における農薬の出荷は、前年度に比べ数量では 2.6% 減の 244 千 t, kl, 金額では 3% 増の 3,344 億円程度と推定される。

表-3 平成 16 農薬年度農薬出荷状況（推定）

（単位：千 t, 千 kl 億円, %）

用 途		平成 15 農薬年度 出荷実績	平成 16 農薬年度(推計)	
			出 荷	対前年比
殺虫剤	数 量	90	87	96.9
	金 額	988	1,012	102.4
殺菌剤	数 量	59	57	97.2
	金 額	811	821	101.2
殺虫殺菌剤	数 量	30	30	99.0
	金 額	320	345	107.9
除草剤	数 量	64	63	98.5
	金 額	1,015	1,053	103.7
その他	数 量	8	7	89.7
	金 額	115	114	99.5
合 計	数 量	250	244	97.4
	金 額	3,248	3,344	103.0

出典：農薬工業会報道発表資料。

「農薬適用一覧表 2004年版」(平成16年9月30日現在) 定価 13,650 円(税込み)

A4判 約 950 ページ 独立行政法人農薬検査所 監修

送料サービス

「農薬要覧 2004年版」(平成15年農薬年度)

B6判 約 770 ページ 農林水産省消費・安全局農産安全管理課・植物防疫課 監修

定価 7,560 円(税込み)

送料サービス

「農薬概説改訂版(2004)」 一農薬取扱業者等研修テキスト

監修 農林水産省 消費・安全局 農産安全管理課, 植物防疫課

独立行政法人 農薬検査所

定価 1,890 円(税込み) 送料 340 円

農薬取扱業者が知っておかなければならない農薬に関する法令とその解説, 基礎知識についての詳細を掲載。

雑誌「植物防疫」特別増刊号のお知らせ

No.6 植物防疫誌にみるカメムシ類

278 頁

定価 2,940 円(税込み) 送料 148 円

昭和 22 年の創刊号から平成 9 年までの関係論文全 61 編を年代順に再収録いたしました。

No.7 植物防疫誌にみるフェロモン研究

381 頁

定価 3,150 円(税込み) 送料 180 円

昭和 43 年に誌面に登場し, 平成 11 年までのフェロモン研究に関する論文 80 編を年代順に再収録しました。

No.8 線虫の見分け方

99 頁

定価 3,150 円(税込み) 送料 92 円

平成 14 年 9 月号～15 年 8 月号で連載いたしました植物防疫基礎講座を再度加筆・訂正し再収録しました。